.............

Rokko Catholic Church Bulletin

六甲カトリック教会 教 会 報

2023

5 *No. 617*



ともに歩み、旅する教会 -シノドスに歩みを合わせて-

主任司祭 英 隆一朗, s.j.

ご存じの方もおられるでしょうが、今年 10 月にシノドス(世界代表司教会議)が開かれます。シノドスの元の意味は、「ともに道を歩む」です。シノドスというと、少数の司教さまがローマに集まって何か大事な話し合いをしているのだろうなという印象をもつくらいでしょう。ところが、今回のシノドスは特別です。単に教会の上層部が決めるのではなく、教会のメンバーから幅広く意見を集め、教会全体でこれからの道を共同識別しようするプロセスを歩んでいます。当教会でも、1年ほど前(私が着任する前に)に意見を提出しました。世界レベルで意見は集約され、昨年 10 月にバチカンシノドス事務局から『大陸ステージのための作業文書』(カトリック中央協議会のHPからダウンロード可能)が発表されました。そして、大陸別のシノドス会儀が開かれました(アジアは2月でした)。

長いプロセスを通して、教皇フランシスコは教会全体の活性化を図りたいようです。その影響は少しず つ浸透しており、世界の教会全体がシノダリティー(ともに歩む教会の精神)を生きようしています。その

歩みに合わせて、六甲教会もともに歩むシノダリティーの精神を活かしながら歩んでいきたいです。単に主任司祭がひっぱっていくというよりも、信徒一人おひとりの自発性と多様性を活かしながら歩んでいきたいです。

当教会の喫緊の課題は、コロナで停滞していた活動の再活性化でしょう。できれば、年齢別の集まり(壮年会や三日月会など)は定例化して、同世代のメンバーと交流できる場になればと願っています。地域別の集まり 教会の(地区会など)も近所の方々と気軽に集える場になるとよいなと考えているところです。



教会の庭の花「イキシア」

ミサでは、第 1 日曜日の 10 時ミサは手話付きのミサです。障がいのある方々とともに祈ることは、シノダリティーの一つのしるしとなります(『作業文書』 36 参照)。多様な人びとがミサに参加でき、それが一致のしるしとなっていくとすばらしいですね。

また、第4日曜日の10時ミサは子どもとともにささげるミサです。子どもや若者とともに祈りをささげることも、シノダリティーの一つのしるしだと思います。『作業文書』35では、「教会生活において、若者の声がほとんど存在しないことに、世界中から懸念が表明されています」と記されています。教会が若い世代に引き継がれていく工夫が必要です。幸いなことに、教会学校・中高生会・青年会は4月からよいスタートを切りました。特に、4月16日(日)には5名の子どもの洗礼式と8名の子ども(半分は受洗者)の初聖体式があり、教会全体が若返ったかの印象を受けました。

シノドスには触れられていませんが、日本社会の高齢化問題など、六甲教会として意識していく課題は多々あります。さまざまなチャレンジを皆で共に担いながら歩んでいきましょう。教会の保護の聖人である、無原罪の聖母の取りなしを願いつつ。

四旬節から復活節へ

コロナが影を潜めた4月、満を持して、ことしの聖週間がはじまりました。満開の桜のもと2日の受難の主日、聖木、金から復活徹夜祭の8日へ。復活のロウソクを持って会堂に集まった会衆の喜びは最高潮に達しました。そして9日の復活主日。3年ぶりの復活のつどいは順調にすすみ、「ご復活おめでとう」の挨拶が飛び交いました。

《受難の主日》







《洗足式》



聖木曜日の主の晩餐の夕べのミサ中には、洗足式が行われました。これは、イエスさまが弟子たちの足を洗って愛と奉仕の模範を示したことを思い起こす式です。(ヨハネ 13・1-15)。2016 年以前は、「選ばれた何人かの男の人」の足を洗うものでした。しかし、現教皇フランシスコにより、『ローマ・ミサ典礼書』にあるその部分の規則を、「神の民の中から選ばれた人々」に変更することが適切と判断されました。そのためこのグループは、男性と女性で構成することができ、若者と高齢者、健康な人と病気の人、聖職者、奉献された人、信徒から作られることがふさわしいとされています。

《洗足式に与って》

洗足式の知識は幾分かありましたが、いざ自分が指名されると、なにかワクワクしました。私はこれまで10年以上も六甲教会に通っていて、神父様や信徒のみなさまとも親しくさせていただいていましたが、受洗したのはつい2年前のこと。だから長く未信者だったことについて、周囲の方々にびっくりされたのでした。そしてこの日を迎え、たくさんの人を前にした儀式に胸がドキドキしました。

儀式では温かいお湯に右足を浸した後、増井神父さまによりタオルで包みこむように 丁寧に拭っていただきました。そのとき、フワッと嬉しくなったことを覚えています。 今年の12人の弟子たちのひとりにしていただいたんだなぁと、珍しくて不思議な思い がする一方、自分がその場にいることに改めて驚く思いでした。(三浦 智子)

《聖金曜日の十字架礼拝、復活徹夜祭の洗礼式》

- ★聖金曜日(7日)には十字架礼拝が厳粛に行われました。十字架賛歌の流れるなか、人々は正面の十字架に深々と礼拝、いけにえのイエスの愛をしのびました。
- ★復活徹夜祭には成人14人が受洗しました。(写真上)





主聖堂祭壇右側の洗礼盤の前で、一人一人が、 "父と子と聖霊の御名において"と唱える英主任 司祭により洗礼を受けました。

《受洗者のことば》

このご復活祭に洗礼を受けることができ、心から 感謝します。

故郷の親族を相次いで亡くしましたがコロナ禍で見送ることができず、日本語は不十分、母国語の語彙も乏しくなっていく中、不安や憂鬱に支配される日々でした。

一方、コロナ禍ゆえに日帰りとなったため、昨年5月のマリッジ・エンカウンター(ME)に参加でき、翌週のミサに与ると当教会の ME の先輩がすぐに神父様のところへ導いて下さり、入門講座に参加しました。

神様、皆様の助けを借りながら不安や憂鬱を通り 抜け、本国を天に置く一人として生きたいと、御心 に近づけるように日々を送りたいと願うようにな りました。人生の指標が与えられた、私にとって「新 たに生まれ」た日です。(ヨセフ張 許涇)

★こどもたちは復活節第2主日に5人が受洗(うち一人は幼児洗礼)し、新受洗のこどもたちを含む8人(写真左、前列)が初聖体を受けました。受洗式、初聖体がミサ中で行われ、そのあと、お祝いの茶話会が開かれました。受洗・初聖体のこどもたちは声を揃えて、感謝の言葉を述べました。





《受洗式に代父として立ち会って》

昨年春に4つ年下の中学、高校の後輩で、同じ部活をし、震災の時には共に六甲教会で活動し、そして同じ医師の道を歩んでいた友人が帰天しました。彼が亡くなったあと、息子さんが受洗を決意、1年間準備し、無事4月16日に受洗しました。自らの死を受け止め、その最後の日まで彼らしく生き抜いた友人は、息子がもしカトリック信者になることがあればと、きちんと洗礼名まで準備していました。君の代わりにはとてもなれないけど、代父としてこれからも息子さんと共にキリスト者として歩んでいくので、天国から見守っていて下さい。(西田 仁)

典礼部からのお知らせとお願い

復活節第2主日からは、会衆も聖歌を歌うなど、ほぼすべてのことがコロナ前に戻りました。今後の典礼に関連して、以下みなさまにお知らせとお願いです。

1. 聖歌について

聖歌番号は週報に記載してあるほか、入祭・奉納・拝領・閉祭の歌については、聖堂モニターでも30秒間表示します。答唱詩編とアレルヤ唱は「聖書と典礼」の楽譜をご覧ください。なお、答唱詩編は答唱句(「聖書と典礼」に楽譜が記載されている部分)を、アレルヤ唱は「アレルヤ」の部分をお歌いください。その他の部分は独唱者が歌います。

音楽チームが作成した『ミサ式次第 ミサ曲(A) 楽譜』という小冊子が『典礼聖歌』のいちばん後ろに挟みこまれています。「いつくしみの賛歌」「栄光の賛歌」「感謝の賛歌」「平和の賛歌」および「記念唱」(信仰の神秘…)等のミサ曲は、こちらをご覧の上、お歌いください。

六甲教会音楽チームは YouTube チャンネルに新しいミサ曲をアップしていますので、早く慣れたいかたは検索してみてください。

2. 座席について

復活徹夜祭から主聖堂のすべての座席を使うことになりました。それに伴い、コロナ対策のため主聖堂後方に入れていた補助椅子は、告解室前の待合席を除きすべて撤去しました。本来は消防法の規定により、聖堂内にも主聖堂とイグナチオホールの間にも補助椅子を置くことはできません。御降誕や御復活など、多くのかたが参加されると見込まれる典礼の際には小聖堂を開放しますが、それでも座席が足りない場合には、イグナチオホールの扉を開放してホール内の椅子にお座りいただくことになります。

ご理解とご協力をお願いいたします。

3. 「手話付きミサ」について

毎月第1日曜日10時ミサは「手話付きミサ」です。これまでミサ開始10分前から主聖堂中央で「典礼手話講座」が行われていました。今後は9時30分より主聖堂祭壇向かって左前方で、希望者に対して典礼に使う手話を教えていただきます。勉強を希望されるかたは9時30分までにお集まりください。

手話付きミサ終了後には、引き続き聞こえない方々との交流会をイグナチオホールで行います。どなたでもご参加ください。

4. 「子どもとともに捧げるミサ」のギター奏者募集について

毎月第4日曜日10時の「子どもとともに捧げるミサ」でギターを弾いてくださるかたを募集しています。年齢は問いません。毎回すべての曲を弾いていただく必要はありません。 まずは1曲からでも結構です。お気持ちのあるかたは、教会事務室にお知らせください。

典礼部コーディネーター 中西 裕樹

社会活動部 今月の予定

5月10日(水) 10:00~ 手芸の集い 第1、第2会議室

5月13日(土) 10:00~ 炊き出し 中央教会内活動センター台所 メニュー カレー

5月29日(月) 9:30~ ともしび会 教会台所 (児童養護施設の子どもたちへのケーキ作り)

春の黙想会のお知らせ(5月20日〔土〕)

指導:英隆一朗主任司祭

テーマ:「聖イグナチオの霊操の基本を学ぶ①」

9:30 受付10:00 開始

15:00 参加者のためのミサ

※場 所 六甲カトリック教会聖堂ほか

※各自昼食と聖書をご持参ください。

※今回のテーマは今後3年かけて春と秋の黙想会で全6回のシリーズで行います。





私の好きな聖書の言葉

使徒ヨハネ 二木隆男



「父よ、彼らをおゆるし下さい。彼らは自分らが何をしているのか、わからないのです。」 ルカ 23:34

僕は 18 歳の時、芦屋教会で受洗し、その後六甲教会で、当時のペレッティ神父様や他の 2 名の神父様にカトリック要理及び新約聖書の勉強をみていただきました。ある日僕はペレッティ神父様に、「神のみ教

えはすばらしい。だが、納得できないところがある。健常者の信徒さんの中には教会の中では熱心に信仰しているように見えるのに、教会の外に出ると、恵まれない人や障がい者に対してよくない態度をとる人がいる。そのような人は、カトリック信仰を持つ者としてふさわしくないと感じるが、神のみ教えはどうなっているのか?」と尋ねました。他の神父様にも同じことを聞きました。すると驚いたことに3人の神父様からの返事は全く同じでした。

ペレッティ神父様はにっこりしながらこう言いました。「その人たちは偽りの信者なので、改心しないと天国へ行けなくなります」と。そして、「ルカ23章34」を読むように言われました。そこで僕は初めて納得し、その時僕の心から神への疑問が消えました。

五体満足な人でも年をとると、いつかは聞こえなくなり、歩けなくなり、目が見えなくなるという障がいをもつ日が来ることを、後になって気が付くのです。僕は恵まれない人、障がいのある人などに心無い態度をとる人たちの為に祈っています。お互いに祈りながら理解するだけで良いと思います。

社会活動部ボランティアグループ紹介(6)ラルシュ かなの家

ラルシュかなの家の「ラルシュ」とは、フランス語で「箱舟」という意味で、「なかま」と呼ばれる知的障がい者と彼らを支える「アシスタント」と呼ばれる人々が一緒に共同生活を営む家として名付けられました。元々この共同体ラルシュは、フランス系カナダ人のジャン・バニエが 1964 年に設立したもので、現在、世界 38 ヵ国に 160 ヶ所あります。日本には、ラルシュ共同体の家は、たった一つしかありません。それが、1978 年静岡県足久保に設立された「ラルシュかなの家」なのです。

ここでは、自分たちの生活を支えるために、仲間とスタッフが一緒になって環境に優しい天然素材で作った石鹸や、畑で収穫した野菜などを売っています。石鹸は、よく見ると少しへこんでいたり、曲がっていたり、形がいびつですが、それは、一つ一つの手作り作業で作られているからです。知的ハンディをもっている人は、社会で生きていくのに不都合なところをかなり抱えています。しかし、彼らは、健常者が持っていない、あるいは失ってしまった「人を迎える力」「赦す力」「つながりを大切にする力」を持っています。

市販の界面活性剤の石鹸は洗浄力を高める働きがあるかもしれませんが、肌を守るためのバリア



機能まで損なってしまいがちなので、手が荒れるデメリットがあります。また、海や川に流れた界面活性剤は、海や川の生き物の命をも脅かしてしまう危険性もあります。テレビや雑誌に幅広く宣伝する資金がないので、人から人へと口こみで広めて支援しています。社会全体の地球環境を守る意味でも、イグナチオ喫茶の時にどうぞ「かなの家」にお立ち寄りくだされば幸いです。(写真は「かなの家」提供) (井川 伸子)

今月の聖人 聖アンドレイ・ボボラ



1591年ポーランドに生まれました。イエズス会に入会。若い頃は「口を慎まず、長上への従順さに欠ける」などとの評判もあったようですが、当時流行したペストのパンデミックのさ中ではよき働きをしました。1633年から1655年まで各地で精力的に布教につとめ、1643年にはベラルーシのビンスクにカトリックの学校を設立するまでになりました。しかしポーランドはその地政学的特徴からロシアの侵攻を受けやすく、宗教的にも依然ローマカトリックとロシア正教の軋轢が存在していました。1596年にブレスト・リトフスク協定が結ばれ、両教会の共存が図られましたが、その後ロシアのコサックに協定は踏みにじられ、カトリックは打撃を受け、ボボラはビンスクに逃れたものの、こんどはロシアが本格的にポーランド・リトアニアに進軍してきました。

1657年5月16日ボボラは捕えられ、残忍で執拗極まる拷問を受け殉教します。最後の言葉はイエスと同じ「主のみ手に委ねます」でした。1938年に列聖されました。(詫洋一記)

☆100分 de 名著 新約聖書 福音書 若松 英輔 NHK出版

サブタイトルは、「理解するのではない、心で味わうのだ。」 これはこの4月に4回にわたってNHK-Eテレで 放送された「100分 de 名著」のテキストです。 若松英輔さんは、深く丁寧で分かりやすい良書をNHK出版から多く出されています。

・以下の3冊はいずれも子供の本です。

★マリー・キュリー アリアイサベル・サンチェス・ベガ ほるぷ出版

ノーベル賞を2度受賞し、科学の発展に尽くしたマリー・キュリー。その生涯をやさしい言葉と親しみやすい 絵で伝えます。子どものころの夢や思いをむねに、よりよい世界を目指して活動した人たちの物語を紹介する 「はじめてよむ伝記えほん」シリーズの1冊。

(次の2冊の著者はイグナチオ教会の信者の**あんびるえつこ**さんです)

☆お金と社会の未来 99%の小学生は気付いていない!? Z-KAI

おこづかいといった日常のお金の使い方だけでなく、家庭や社会の仕組みにお金がどう関わっているか、 学ぶことができます。

☆やりたい! の見つけ方 99%の小学生は気付いていない!? Z-KAI

教科書では学べない、これから生きていくために大切な力。読めば、明日の自分、十年後の未来が変わるかもしれません。

◎図書室の模様替え:ご提案を募集します!

図書室は今、オープンスペースとしての利用が増えてきています。また土曜日には、教会学校の子供たちの大切な交流の場としての役割を果たしています。現在の小児用デスク・椅子のスペースの周囲には小学生向けの図書も有りますが、肝心な部分がカトリック大辞典や辞書類・分厚い聖書註解書などで占められています。全体としても蔵書量が多く、整理が行き届いていないのが現状です。そこで、図書の使い勝手と使用頻度を顧慮しながら、図書室の模様替えをすべく、本の整理と配置見直しを考えていきたいと考えています。

さらに、1階の集会室壁面棚の CD・カセットテープ・ビデオテープなどもこの際、廃棄処分も含めて、整理検討を開始しました。そこで、皆さまからのご提案をお願い致します。ネットメディア情報が優勢な時代になっても、まだまだ啓発される良書も多く、教会員の皆さん、地域の皆さんと共有できる場を作っていきたいと願っています。

- ・図書室の新しいイメージや希望などがありましたら、メモに記し、事務室か聖堂入り口の意見箱へ。
- ・図書類の整理・移動・運搬には大きな力が必要です。チームを作って協力して当たるなど、この点についてもご提案下さい。

・・・ その他のお知らせ・・・・・・・・・・・・・・

- ★フィリピン人エルウィンさんの修練研修(4月25日から1か月の予定)は中止となりました。
- ★信徒会館学習室の使用時間が、水曜日を除く平日は 20 時までとなりました。(水曜日は 17 時まで。スタッフの都合によりさらに変更になることがあります)。

★5月21日(日)10時ミサ後、堅信式のお祝い会を開催いたします。

ケーキ、クッキー等の寄贈をお願いいたします。

当日午前中にイグナチオホール台所まで寄贈をお願いたします(地区会)

・ 六甲教会で毎月炊き出し等を行っている社会活動部に対して、カトリック社会活動神戸センターの木谷公士郎センター長よりお礼と近況報告が届きました。

カトリック社会活動神戸センター (略称 活動センター) からの近況報告

センター長 木谷 公士郎

毎月の炊き出し支援に感謝しております。

生活保護費が乏しくなる月末近くには炊き出しに参加される方が 120 人前後と増加傾向になっています。 これは野宿の方が増えているというよりも、生活困窮者が炊き出しに参加することで、苦しい生活を乗り切っているという感じです。

3月9日、小雪の舞う寒い日でしたが、プチ小野浜祭りを開催しました。鈴蘭台教会が作って下さった牛丼を配食しました。この日は、在庫している防寒着・防寒ズボン・セーターなどを一人1点無料提供いたしました。

ハンガーに掛けた衣類をテントのポールにぶら下げて、より取り見取りで楽しんでもらいました。また、歯ブラシ・髭剃り・靴下や、フードバンクから提供の缶パン・サイダーなどのお土産付きでした。

4月13日には、第2弾のプチ小野浜祭りを開催しました。この日も鈴蘭台教会の牛丼を配食し、配食数は100人分、物資提供は110人分でした。今回は春から夏に向けての衣料提供と、歯ブラシ・髭剃り・タオル・石鹸・肌着のお土産を配布しました。

新型コロナ感染状況が落ち着きを見せてきましたので、野宿者・更生センター利用の方に制限しておりましたシャワー・洗濯の利用を希望者全員に広げています。ただし、シャワーは台数に制限がありますので予約制です。洗濯機も3台ですので希望者多数の場合には順番の抽選をいたします。

これから汗をかく時期、少しでも気持ちよく清潔に過ごしていただければと考えております。

₹ 聖歌隊と一緒に歌いましょう

聖歌隊は下記の時間に練習しています。 どなたでも参加できます!

毎週日曜日 9:00 - 9:30 主聖堂 4月30日(日) 11:15 - 12:30 主聖堂

5月14日(日) 11:15-12:30 主聖堂

5月27日(土) 10:30-12:00 主聖堂

6月11日(日) 11:15-12:30 主聖堂

6月24日(土) 10:30-12:00 主聖堂

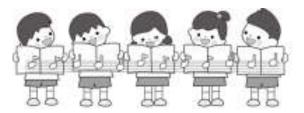
7月9日 (日) 11:15-12:30 主聖堂

7月23日(日) 11:15-12:30 主聖堂

六甲カトリック教会聖歌隊

- ・事前の連絡は不要です。
- ・直接お越し下さい。
- ・見学も歓迎します。

今は新しいミサ曲の練習を 中心にしています。



六甲春秋 沈黙の人・聖ヨゼフ

最近は教会の庭も、すっかり見通しが利かなくなった。見ることも、見られることもすっかり不自由になった。しかし樹木ごとに、ミドリ色の色調が異なり眼に鮮やかだ。太陽光線をはじき返して、新緑がピカピカ耀いている。暖かい春の到来は嬉しい限り。

さて教会は 5 月 1 日、聖ヨゼフの祝日を祝う。この日は、本筋は、復活節第四月曜日の典礼であるが、任意として労働者聖ヨゼフのミサを捧げてもよいことになっている。

「毎日のミサ」によると、1995年にピオ 12 世によって定められ、イエスを育て家庭を営 んだナザレの大工ヨセフは、キリスト者に労 働の尊さの模範を示したと解説している。し かし歴史の大きな渦に巻き込まれたキリス トの教会は、16世紀に宗教改革によってプ ロテスタントの熱心な多くの信徒が離反し、 近代に至って知識人を失い、次に労働者階級 を去らせ、さらに女性群に背を向けられたと いわれる。ヨーロッパのキリスト教会は残念 ながら、真の意味ではヨゼフの真価を認めら れなかったのではないか。彼が示した沈黙の 意味と、肉体労働の価値とが久しく軽んじら れてきた。この意味では、マリアの許嫁であ り夫であるヨゼフは、影の薄い聖人と言えそ うだ。それが証拠にヨゼフの名前を冠する修 道会は、母であるマリアの名前を頂く修道会 と比べて極めて少ない。聖像や聖画は決まっ てヨボヨボのお爺さんとして描かれている。 マタイ福音書では、意図的に(?)アブラハ ムの子でありダビデの子であるイエスの系 図から、彼は除外されているように見える。 またイエスの誕生のドラマでも、沈黙のまま 主の天使の指示にただ従うばかり。30 年ほ ど後で、イエスが公の活動をしていた時の挿 話に母や兄弟たちが登場するが、父親のヨゼ フへの言及はない。彼はすでに没していたの か。そこに登場する兄弟たちとは何者なのか。 一般的には、ヨゼフの 前婚の連れ児と解され てきたが。

ルカ福音書の誕生物語ではヨゼフは許嫁とされるが、もっぱらマリアの独壇場である。 しかしイエスが 12歳



の時の出来事に、イエスを見失い必死に探し回る両親として描かれる。またイエスの系図には、ヨゼフの息子と思われていた・見なされていた(ノミゾマイ)という動詞が使われている。

ここからは、わたしの個人的な聖書理解で あるが、まず許嫁はマリアに相応する若々し い青年であろう。連れ児を引き連れた老いた ヨゼフではない。また当時の伝統的な慣習か ら見て、イエスに養育・しつけを与え、宗教 的な敬虔さを身に付けさせ、ユダヤ人として の聖書的な伝統と知識を教えたのは、安息日 ごとに会堂に行く家長のヨゼフ以外に考え られない。後年のイエスの福音宣教に際立っ た、人々の生活に限りなく近い教え方、たと え話、律法理解などは、ひとえに父親ヨゼフ を通してイエスに受け継がれたと考えられ る。当時の状況からみて、ヨゼフの兄弟をど うしても連れ児と解すべき必然性があるの か。私は夫婦の性という交わりに、まったく 異質な人間的な解釈を持ち込むことを避け たいのだが。

シラ書では、仲の良い夫婦を口を極めて 褒め称え、また子供の養育に尽くす父親を 次のように描写する「子供をしつける父親 は知人の間で自慢ができ、友人たちに誇れ る。この世を去っても、そっくりの子供が 後に残っているから」と。

中村健三 合掌

【2023年5月行事予定表】

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
					初金ミサ 7時、10時 聖体顕示 (10時ミサ後) <u></u> 難北1,北・三田	
7	8	9	10	11	12	13
復活節第5主日 手話通訳つき 小教区評議会 ○日曜班						社会活動部 炊き出し
14	15	16	17	18	19	20
復活節第6主日 世界広報の日	三日月会総 会&講演会				◎灘北2・阪神	春の黙想会 10 時~
21	22	23	24	25	26	27
主の昇天、堅信式 (10時ミサ中)	定期清掃					
28	29	30	31			
聖霊降臨の主日 地区役員会 教会学校遠足			聖母の訪問ミサ 7時、10時半 ロザリオの祈り10時		⊚ 17	は掃除当番地区

- ・次回6月号の発行は6月3日(土)です。 皆さまからのご寄稿をお待ちしています。 原稿は毎月15日ごろまでに、FAX、メール (renraku@rokko-catholic.jp)にてお送り下さい。 手書きもお受けします。(広報部)
- ・教会 SNS チームは、フェイスブック、インスタグラム、ツイッター、YouTube チャンネルで配信しています。「六甲カトリック教会」で検索してみてください。

六甲カトリック教会

〒657-0061 神戸市灘区赤松町 3-1-21 電話 078-851-2846 FAX 078-851-9023 http://www.rokko-catholic.jp

> 発行責任者 英 隆一朗 編 集 広 報 部